

第 65 回 IAEA 総会における事務局長と主な国の一般討論演説の紹介

2021 年 10 月 19 日
(一社) 日本原子力産業協会
情報・コミュニケーション部

2021 年 9 月 20～24 日、オーストリア・ウィーンのウィーン国際センター (VIC) で国際原子力機関 (IAEA) の第 65 回通常総会が開催され、IAEA 事務局長をはじめ、IAEA 加盟国の代表 (政府高官) が一般討論演説を行い、重要問題について検討しました。

核不拡散、保障措置、核物質防護などの議論はもちろんですが、各国の演説では原子力平和利用の最近の動き (パンデミック対応、気候変動対応、原子力発電開発計画、小型炉や先進炉の開発、放射線利用、技術協力計画など) について述べられています。

ここで、IAEA のホームページを参考に、IAEA 事務局長と主な国 (米国、ロシア、中国、英国、カナダ、ウクライナ、インド、ポーランド) の演説のほぼ全文 (仮訳) を紹介します。演説の内容を強調するために編集部の一存で一部を太字で表現しています。

原子力を巡る世界および各国の動向を少しでも理解する参考になれば幸いです。

目 次

1. IAEA 事務局長の開会挨拶 (ラファエル・マリアーノ・グロッシー)	2
2. 米国の一般討論演説 (エネルギー省長官 ジェニファー M. グランホルム)	6
3. ロシアの一般討論演説 (国営企業ロスアトム総裁 アレクセイ・リハチヨフ)	8
4. 中国の一般討論演説 (中国国家原子能機構主任 張克俭)	10
5. 英国の一般討論演説	12
6. カナダの一般討論演説	14
7. ウクライナの一般討論演説	16
8. インドの一般討論演説 (インド原子力委員会委員長・原子力省長官 K.N. ヴィアス)	18
9. ポーランドの一般討論演説 (気候環境相 ミハウ・クリティカ)	20

1. IAEA 事務局長の開会挨拶（ラファエル・マリアーノ・グロッシー）

まず、サモアを IAEA の新しい加盟国として歓迎します。173 番目の加盟国です。2 年連続で、COVID-19 パンデミックの中で総会を開催しています。オーストリア当局の指導と保健衛生機関の勧告に従うことで、ここで皆様方を歓迎できることを嬉しく思います。

このパンデミックは、本当に人畜共通感染症の深い危険に私たち全員を目覚めさせました。私は IAEA コミュニティがこの恐ろしいウイルスの拡散を抑制する闘いで取り組んできたことを誇りに思います。私たちの緊急時対応は、IAEA の歴史の中で最大でした。私たちは、RT-PCR 試験キットを 129 カ国の 304 の研究所に送りました。

COVID-19 が、世界が直面する最後のウイルスの大流行ではないことを私たちは知っています。次回は、国際社会はより良い準備をしなければなりません。

IAEA は、この取り組みで任務を果たしています。私たちの最大のイニシアチブである統合的人畜共通感染症行動、すなわち ZODIAC (Zoonotic Disease Integrated Action) は十分に成熟しています。現在、143 名の ZODIAC ナショナルコーディネーターと 116 名の ZODIAC 指定国立研究所があります。評価を始めるのに合わせて、私たちはニーズをカバーするために調達の取り決めを開始しました。私たちは、追加の予算外支援を受けており、引き続き支援を継続するつもりです。私たちは、支援を提供できる加盟国に対して、共通の目標に財政的貢献をすることを検討するよう要請します。

人畜共通感染症との闘いは、今年の科学フォーラム「人畜共通感染症の流行に備える：原子力科学の役割」の主なテーマとなり、皆さんの多くが私と一緒に参加することを願っています。

COVID-19 は、私たちの加盟国が直面した唯一の緊急事態ではありません。支援の要請を受けて、IAEA は洪水、火山噴火、生物・化学汚染、ハリケーンなどの状況に対応して緊急支援を展開するための迅速な措置を講じてきました。私たちは、ベイルート港での爆発の影響に対する継続的な支援の一環としてレバノンにチームを派遣し、また先月の地震後にはハイチへの支援を行いました。

IAEA は昨年、技術協力プログラムを通じて 146 の国と地域を支援し、そのうち 35 カ国は後発開発途上国でした。COVID-19 の対応以外の主な作業分野は、健康と栄養、食糧と農業、安全とセキュリティでした。キャパシティ・ビルディング（能力開発）はできるだけ継続し、可能な限りバーチャル形式でトレーニングを提供しました。がん治療のための行動プログラムは、ハイブリッドアプローチを使用して imPACT (Integrated mission of Programme of Action for Cancer Therapy) レビューミッションを実施しました。

IAEA は、私たちが直面する最大の環境問題の 1 つであるプラスチック汚染に加盟国が取り組むのを手助けする事業を強化しました。

IAEA は、一連の国際的なハイレベル・ラウンドテーブルを通じて、「プラスチック汚染を制御するための原子力技術」(NUTEC Plastics)の旗の下で、海洋環境におけるプラスチック廃棄物の追跡と評価における加盟国の能力を構築し、原子力技術を使用してプラスチックをリサイクルできる速度を高めるための協働アプローチを開発しました。

保障措置（セーフガード）の実施に関する限り、私たちは、最も重要な現場での検証作業だけでなく、通常は IAEA 本部と地域事務所で行われるほぼすべての保障措置活動を引き続き実施しました。これを可能にした加盟国の支援に感謝しています。

保障措置協定を締結した国の数は 186 で、そのうち 137 の国が追加議定書を発効させました。私は、包括的保障措置協定を発効させていない核兵器不拡散条約(NPT)の締約国に対し、これらの協定を遅滞なく発効させるよう要請します。私はまた、追加議定書をまだ締結していない国に、できるだけ早く締結するよう求めます。古い標準テキストに基づいて少量議定書(SQP)を締結している国に対して、私は呼びかけを繰り返し、それらを修正または取り消すよう求めます。これは、15年以上前に理事会が認識したIAEAの保障措置システムの弱点に対処するために不可欠です。古い標準のSQPは、現在の保障措置システムには不適切です。

昨年の総会で、私は、核物質の計量管理に関する国家システムの有効性をさらに強化するために、COMPASS (Comprehensive Capacity-Building Initiative for SSACs and SRAs) プロジェクトを立ち上げたことと発表しました。私は、この共同評価に続いて、COMPASS への参加を受け入れた7つのパイロット国すべてとIAEAが調整された作業計画を実施していることを報告することを嬉しく思います。

私は、包括的共同作業計画(JCPOA)に基づくIAEAの検証と監視作業について、定期的に理事会に報告しています。

2021年2月以降、イランがJCPOAに基づく核関連のコミットメントの実施を停止することを決定した結果、IAEAの検証と監視活動は悪影響を受けています。その時、私はイランとの一時的な二国間技術合意に達し、IAEAがJCPOA関連の監視装置にいくらかアクセスし続けることを可能にしました。それにもかかわらず、イランの決定は、イランの核関連のコミットメントの検証と監視を将来再開するために必要な知識の継続性を維持するためのIAEAの技術的能力を深刻に損なうものとなっています。

今月初め、私はテヘランを訪れ、建設的な議論の後、共同声明を発表しました。その共同声明は、IAEAの査察官がIAEAの監視と監視装置にサービスを提供し、IAEAとAEOI(イラン原子力庁)のシールの下でイランに保管されているストレージメディアを置き換えることを規定しました。これが行われる方法とタイミングは両者間で合意されています。

この1年間、イランとのNPT保障措置協定に基づき報告し続けてきましたが、IAEAに申告されていないイランの3か所に人為起源の複数のウラン粒子が存在するという未解決の問題や、金属ディスクの形で天然ウランに関する別の未申告の場所に関連する問題があります。私は、イランがこれらの問題をこれ以上遅滞なく明確にし、解決するよう、繰り返し要求します。

先ほど述べた共同声明は、このIAEA総会に際して私がエスラム副大統領(原子力庁長官)と会談し、近い将来にイラン政府高官とのハイレベル協議を行うために私がテヘランを訪問する予定であることにも言及しています。

IAEAは、衛星画像を含むオープンソース情報を使用して、朝鮮民主主義人民共和国(DPRK)の核開発計画を引き続き監視しています。

DPRKの核活動は、深刻な懸念の原因であり続けています。さらに、5MW(e)原子炉の運転と放射化学研究所の新しい兆候は非常に厄介です。DPRKの核開発の継続は、関連する国連安全保障理事会決議に明らかに違反しており、極めて遺憾です。

私は、北朝鮮に対し、関連する国連安保理決議に基づく義務を完全に遵守し、NPT保障措置協定の完全かつ効果的な履行においてIAEAと迅速に協力し、特にDPRKからのIAEA査察官の不在時に生じた未解決の問題をすべて解決するよう求めます。

IAEAは、DPRKの核開発計画を検証する上で不可欠な役割を果たす準備を維持し続けています。

サイバースドルフの IAEA 原子力応用研究所では、ReNuAL2 プロジェクトの下で、近代化の第 2 段階が進行中です。それは気候スマート農業、資源管理、食料安全保障、健康に関する私たちの業務には不可欠です。私は、加盟国の支援と信頼に感謝します。予算内および時間内でこの重要な作業を効率的に完了するために、このような財政援助をあなた方に頼っています。

気候変動に関する政府間パネル (IPCC) は、第 6 次評価報告書の中で、人間の影響が大気、海洋、大地を温めたことは明白であると述べました。グラスゴーで開催される国連気候変動会議 COP26 で、IAEA は、気候スマート農業、持続可能な土地・水利用および環境における緩和と適応の取り組みを支援する原子力技術の役割を強調する方針です。

COP26 で私は、原子力が気候変動の解決策の一部であり、解決策の一部でなければならないというメッセージを直接伝えます。

IAEA の最新の予測によると、高ケースシナリオでは、原子力発電設備容量は 2050 年までに現在のレベルの 2 倍に増加します。これは、既存原子炉の運転期間の延長と、新規建設約 5.5 億 kW の両方に依存しています。しかし、IAEA の低ケースシナリオによれば、原子力を容認する姿勢の欠如から原子力発電設備容量の増加が抑えられ、気候の大惨事を避けるために必要な対策からますます遠ざかることとなります。

現在 32 カ国で稼働している 444 基の原子炉は、約 3.95 億 kW の設備容量を提供し、世界の電力の約 10%、低炭素電力の 4 分の 1 以上を供給しています。19 カ国で 50 基の原子炉が建設中で、約 5,300 万 kW の追加容量が見込まれています。

原子力の安全とセキュリティは、引き続き私たちの取り組みの重要な部分であり、今後も重要です。

IAEA の安全基準は、電離放射線の有害な影響から人々と環境を保護するために、ほぼすべての加盟国によって自発的に使用されています。同様に、加盟国は、国家核セキュリティ体制の確立、維持、強化のために、IAEA の核セキュリティシリーズを自発的に使用しています。

また、加盟国は、原子力の安全性とセキュリティを継続的に強化するために、IAEA が提供する専門家のピアレビューとアドバイザリーサービスを広範に利用しています。

昨年の IAEA 総会以来、日本政府は、福島第一原子力発電所に貯蔵された ALPS 処理水を放出する日本の計画に関して、IAEA の支援を要請しました。IAEA は、この取り組みを支援するため、地域を含む世界中の専門家グループを任命しました。IAEA は、ALPS 処理水の放出前、放出中、放出後に日本に支援を行います。

来年、私たちは、改正核物質防護条約に関する締約国会議を開催します。同改正条約に基づく最初の会議です。預託者として、私たちは、会議を成功させるために、指定された共同議長および締約国と緊密に協力しています。

また今年、サイバースドルフで建設を開始した施設の重要性を強調したいと思います。IAEA 核セキュリティ訓練・デモンストレーションセンターは 2023 年に運用され、核物質の違法取引、施設の物理的防護、主要な公的イベントの防護などの分野において核テロリズムに取り組む各国の能力を強化するのに役立てられます。これは、少数の加盟国の寛大な財政支援を通じて可能になりました。

基本的なプログラムニーズに関しては、IAEA の核セキュリティ活動のための資金は、より持続可能な基盤に置かれる必要があると考えています。核セキュリティは、現在のように、予算外の貢献に依存するにはあまりにも重要です。

原子力技術の大きな利点は、安全とセキュリティを第一に考えるダイナミックで堅牢な法的枠組みの中でのみ持続可能です。IAEA は、包括的な国内原子力法の枠組みを確立し、関連する国際法的手段を実施する上で、加盟国を引き続き支援します。

IAEA は来年 2 月、原子力法の様々な分野をさらに発展させ、国際的な専門知識の推進を目的に、原子力法に関する初の国際会議「グローバルディベート」を開催します。5 日間の会議では、政府、国連システム組織、地域組織、産業界、学術、市民社会からの第一線のグローバルな専門家のためのユニークな議論の場が提供されます。

私は、IAEA と原子力部門の中でより広範にジェンダーバランスのとれた労働力を作り出すことを非常に重要視しています。事務局長時代の初めに実施した政策が大きな進展を促進したことを報告できることを嬉しく思います。事務局で働く男女のバランスは、今まで以上に平等になっています。全体として、女性はプロフェッショナルとより高いカテゴリーの 35%を占めており、ほとんどの上級レベルではそれよりはるかに上回っています。

一方、最初の 100 人のマリー・スクロドフスカ=キュリーのフェロー（奨学生）が原子力科目の修士号に対して資金援助を受け、そのうちの何人かは、ここ IAEA 本部でインターンシップを開始するなど、より広範な取り組みが進んでいます。フェローシップは成長しています。第 2 ラウンドでは 110 人のフェローシップポジションを予定しており、あなた方が引き続き支援してくれるものと私は信じています。

私は、あなた方が私たちに委託するリソースを賢明かつ生産的に管理することにコミットしており、多くの国が財政的制約状態にあることを理解しています。これは、2022-2023 年に合意した予算に反映されました。初めて、両年は実質成長ゼロの予算に基づいています。

6 月と 9 月の理事会で行われた一部の声明に盛り込まれ、第 65 回定例総会で検討される予定であるすべての IAEA 加盟国の主権平等のトピックに言及し、私は、IAEA 憲章第 4 条 C 項が「IAEA は、すべての加盟国の主権平等の原則に基礎をおく」と定めていることに留意します。私は、第 6 条の改正に関する議論の文脈において、加盟国の主権平等の原則は、各加盟国が理事会に選出される資格を有し、理事会と総会が、各加盟国が何らかの地域に属することを前提に行動することを要求していることを思い出します。したがって、この重要なテーマに関する加盟国の審議を歓迎します。

最後に、私たちの業務を促進するために可能な限り全力を尽くしてくれた開催国オーストリアに感謝したいと思います。そして、特にこの 1 年半の困難の中、IAEA スタッフのコミットメントと努力に感謝しています。

2. 米国の一般討論演説（エネルギー省長官 ジェニファー M. グランホルム）

初めに、ジョー・バイデン合衆国大統領のメッセージをお伝えできることは光栄です。彼のメッセージは次の通りです：

第 65 回 IAEA に参加されている全ての皆さん方に挨拶します。

IAEA は世界が必要としているときに誕生し、現在も不可欠な多国間ツールとして存在しています。それは、国際協力と国際連携により、原子力技術は、世界の平和、健康、繁栄および持続可能な開発を醸成するのに貢献するという強い信念に基づいています。

その創設から数十年の間、IAEA は原子力の平和利用において極めて重要な進歩を促してきました。現在、私たちは、COVID-19 との闘い、気候危機への取り組み、核兵器拡散によってもたらされる現実の脅威など、一連の新たな共通の課題に立ち向かうために協力しなければなりません。

英国で開催される COP26 気候変動会議が近づいており、IAEA とその加盟国は、パリ協定で設定された目標を満たし、2050 年までに排出実質ゼロを達成するためにできることは全て実行しなければなりません。

これにはエネルギーミックスの一部として安全・セキュアな原子力を追求することが含まれています。

目標の達成には、安全性、核セキュリティ、保障措置の最高の基準を進めていく国際協力も必要です。私は、全ての国に普遍的な核不拡散基準として追加議定書を採択するように要請します。

その目的のために、米国は、イラン核合意の遵守への相互復帰、および朝鮮半島の完全な非核化を継続して追求します。そして、来るべき NPT 再検討会議で NPT への共通で永続的なコミットメントを実証することにあなた方の全てが参加するよう要請します。

米国を代表して、私は実り多い IAEA 総会となることを祈っています。

バイデン大統領が指摘したように、私たちは皆、気候変動に対処するという緊急事態に直面しています。

IPCC 報告書は明確でした。人類にとっての非常事態であり、私たちは原子力の継続的展開が気候変動に立ち向かううえで必須であることを知っています。

余りにも長い間、気候変動に関する会話は、繁栄と質素の間の選択という誤った枠組にとらわれていました。

しかし現在、実質ゼロへの移行は大きな経済的機会を意味しています。世界のクリーンエネルギー市場は 2030 年までに少なくとも 23 兆米ドルに成長する見込みです。

そして先進的な原子力技術は重要な役割を果たす準備ができています。これは米国が原子力イノベーションにコミットしている主な理由です。しかし、これだけが理由ではありません。

私たちはカーボンゼロの原子力を持続的に開発するだけの技術と政策ソリューションを持っています。同時に原子力と放射線の安全とセキュリティを強化し、世界の健康の成果を改善するソリューションです。

私がバイデン政権の炭素排出を 2030 年までに最大 52%削減し、2035 年までにクリーンエネルギー100%を達成するという目標、気候行動へ歴史的な投資の推進、クリーンな原子力のポテンシャルを完全に利用するという目標についていつも熱心に語るときには、私は原子力平和利用の広範な貢献を共有したいと思っています。

バイデン政権下で、米国は IAEA の「がん治療行動プログラム」に貢献してきました。

私たちはまた、IAEA 加盟国が保障措置義務を遂行し、核物質が平和目的にのみ利用されていることを確実にするのを手助けするために、訓練やキャパシティ・ビルディングに投資してきました。

私たちは、プラスチック汚染をコントロールするための IAEA の取り組みである「NUTEC Plastics 事業」を支援してきました。

私たちは次世代の先進原子力発電技術を開発するために国際パートナーと協力しています。私たちはまた、これらの新技術のセキュリティに焦点を当てた訓練とワークショップに投資しています。

私たちは 21 世紀の原子力発電に関する第 5 回閣僚級会議の開催計画について、IAEA と密接に協議しています。私たちがホスト国として来年ワシントン D. C. で開催を予定しています。

私たちは、ここに出席されているパートナーともっと多くのことを成し遂げる機会を熱望しています。

今週の会議の期間中、共に原子力についての対話を再構築しましょう。気候変動に対する闘いを前進させましょう。私たち皆が手の届く範囲にあることを知っている安全でセキュアでクリーンなエネルギーの将来を築き上げましょう。

3. ロシアの一般討論演説（国営企業ロスアトム総裁 アレクセイ・リハチョフ）

2年続けて、私たちは厳しい感染症による制約の中での業務を強いられています。しかし、現在の体裁で第65回総会が効率的でかつ成功裏に開催されることを確信しています。

I（IAEA）

パンデミックによってもたらされた困難な状況において、IAEAがラファエル・グロッシー事務局長の指導下で、その憲章上の機能を完全に果たし続けることは非常に重要です。

保障措置は、核物質が平和目的にのみ利用されていることを検証するために、適用されています。IAEAは、各国の原子力インフラの開発に当たって各国に支援を提供しています。平和目的の原子力の安全で持続可能な開発のための枠組みを作る作業が続いています。

ロシアは、活動の全ての主要分野で専門家による支援や財政支援を事務局に提供しています。私たちは、今後もこれを継続していくつもりです。

私たちは小型モジュール炉に関する新しい部門間プロジェクトを開始するというグロッシー事務局長のイニシアチブを完全に支持します。次の論理的なステップは、小型モジュール炉技術に関するIAEAの国際会議を開催することでしょう。私たちは、ロシアでそのようなイベント開催する準備ができています。

私たちにとって、小規模発電の開発は優先事項です。2基の小型炉を装備した世界唯一の浮揚型原子力発電プラントが既にチュクチ（自治管区）で成功裏に運転しています。4基の近代的な浮揚型発電ユニットもまた同地で建設予定です。サハ（ヤクーチア）共和国では、RITM-200N原子炉をベースにした小型原子力発電所の建設プロジェクトを実行しつつあります。

II（原子力開発とロシア）

近年、21世紀を通じて原子力産業の意義が実証されてきていることを、私たちは確信しています。

私たちにとって、2020年は好調に終わりました。ロシアの原子力発電量は約2,160億kWhで、記録を樹立しました。旧ソ連時代に全原子力発電所が達成した最高指標を超過しました。

私たちはここに留まりません。今年3月、レニングラード原子力発電所の1基（ロシアの第3世代+炉として4基目）が営業運転を開始しました。

私たちはパートナー国における原子力開発を引き続き推進していきます。私たちは、長期かつ持続可能な開発の課題を重視しています。3月、トルコのアックユ原子力発電所3号機の工事が始まりました。5月、中国の田湾原子力発電所7,8号機と徐大堡原子力発電所3,4号機の建設が始まりました。6月、インドでクダングラム原子力発電所5号機の建設が始まりました。6月上旬にはベラルーシ原子力発電所1号機が営業運転を開始し、同2号機の建設は今年末までに完了する予定です。私たちは、バングラデシュ、ハンガリー、エジプトで建設作業を続けています。

私はロシアがクローズド核燃料サイクルを備えた新しい原子力技術像の計画を進めていることを強調したいと思います。これは燃料ベースを何倍にも増大させるだけでなく、使用済燃料管理に関する問題も解決してくれます。

今年6月、高速炉ユニットの建設がトムスク州のセベルスクで始まりました。世界で初めて、同じサイトで原子力発電プラントとクローズド核燃料サイクル施設が建設されます。これは世界の原子力産業にとって画期的な出来事です。IAEAのグロッシェ事務局長をはじめとする多くのパートナーが、建設記念式典に参加しました。

しかし、平和の原子力はエネルギーだけではありません。国連の持続可能な開発目標を達成するのに貢献する電力以外の技術も含まれます。

関心を有する国々に対して私たちが取り組んでいるものに原子力科学技術センターがあります。今年、ボリビアでそのようなセンターの第1陣、第2陣の施設が開所します。

多目的高速研究炉 MBIR の建設は最盛期にあります。これをベースにして、世界高速炉能力センターがIAEAの後援のもとで設立される予定です。私たちは、世界のパートナーにこのプロジェクトに参加されるよう招待します。

III (グリーン・アジェンダ)

原子力発電は、低炭素エネルギー源です。世界の気候変動との闘いにおいて、最も重要なツールです。原子力発電所のライフサイクル全体での温室効果ガス排出量は、水力、風力、太陽発電からの排出量と同程度であり、石炭火力発電所の70分の1です。

気候変動との闘いにおいて原子力がかたらす貢献の規模は絶大である。世界で運転中の原子力発電所は、地球上の全森林の吸収能力と同程度の温室効果ガスの排出を節約しています。

ロシアでは、近代的な原子力が持続可能な開発の原則に適合し、経済に安定かつクリーンなエネルギーを供給しているということは疑う余地がありません。IAEA基準によって確立されたものを含めて最高の安全基準は、原子力施設から人間の健康や環境に負の影響を及ぼすことがないことを保証しています。ロシアでは今年、原子力の「持続可能性」が、「グリーン」プロジェクトの国家のタクソノミー（投資対象の分類基準）の中で、法律に明記されるでしょう。

私たちは、主要な専門家組織としてのIAEAが、原子力の「グリーン」なステータスを確実にする取り組みにおいて中心的な役割を果たすものと、確信しています。私たちは、必要な支援を提供する用意があります。

気候変動に対抗するに当たっての原子力の貢献の話題について、今年の重大な行事であるグラスゴーでの気候変動会議において正しく表明されることが非常に重要です。私たちは入念にこのイベントの準備を進めており、オープンで生産的な対話になることを期待しています。

ロシアでは、原子力技術を使って様々な経済部門で排出量を削減するための特別のプロジェクトを既に実施しています。そして私たちはこのなかで、特にIAEAのプラットフォームで、全ての関係者と密接に協力する用意があります。それゆえ、私は、今年4月の気候サミットでのウラジミール・プーチン大統領の言葉を引用して、私の演説を締め括りたいと思います。

「ロシア連邦は、気候変動問題の効果的な解決策を追求し続けるために国際協力を強化することに心から関心を持っています。」

4. 中国の一般討論演説（中国国家原子能機構主任 張克儉）

COVID-19 のパンデミックは依然として世界中で猛威を振るっており、世界の原子力開発は多くの課題に直面しています。グロッシー事務局長のもとで、IAEA はパンデミックによってもたらされた課題を克服し、その憲章上の使命、すなわち原子力平和利用の推進と核兵器の拡散防止を忠実に遂行してきました。

原子力技術を用いたパンデミックとの闘いや気候変動問題に対抗するための原子力利用の推進だけでなく、人畜共通感染症の防止と治療、さらにはイランの保障措置活動の適用に向けての動きなど、IAEA は加盟国の活動を積極的に支援してきました。これらは社会経済発展の強化や核不拡散体制の維持における世界的取り組みに大きく貢献しています。

中国政府はクリーンで効率的なエネルギーシステム構築にコミットしており、原子力はカーボンピークとカーボンニュートラルを実現する重要なオプションと見なしています。

これまで中国本土で 51 基の原子力発電炉が運転中で、さらに 19 基が建設中です。

国産の最初の華龍一号炉が国内と国外で続けて営業運転しています。第 4 世代先進原子力技術で世界最初のモジュール型 HTGR が初臨界しました。Guohe One（国和一号、CAP1400）実証プロジェクトが着実に進展しています。実証高速炉と多目的小型モジュール炉が円滑に進展しています。中国初の高レベル液体廃棄物のガラス固化施設が最近、公式に操業開始となりました。中国は、国連の持続可能な開発目標達成に資するべく、世界の原子力インフラ開発、科学技術イノベーションおよび人材養成の推進について、IAEA と他の加盟国と進んで協力する用意があります。

COVID-19 パンデミックの発生以来、中国は、医療保護材料の殺菌、医療排水や廃棄物の処分、コールドチェーン食品の外装、パンデミックの防止と制御のために環境に優しく効率的な解決策に、原子力技術を利用してきました。蚊媒介性の伝染病を抑制するために開発途上国とともに SIT（不妊虫放飼法）利用の経験を共有する共同センターの設立について、IAEA と協力してきました。

統合的人畜共通感染症行動（ZODIAC）などの IAEA のイニシアチブを支持します。中国は、開発途上国がパンデミックと闘い、人間の健康と食料の安全保障など分野の難題に対処するのに支援するために、より多くの公的製品を喜んで提供する用意があります。

人間社会は共通の未来を持ったコミュニティです。全ての国と協力し相互に助け合うことによるのみ、原子力開発におけるリスクや課題を防止し解決することができ、「平和と繁栄のための原子力」の共通目標を達成することができます。

第 1 に、原子力のライフラインを確実にするために安全第一が守られなければなりません。IAEA は原子力安全文化、基準・ガイドラインを推進し続けなければなりません。そして、全ての国は、それぞれの国の義務を絶えず強化し、国際義務を厳格に履行し、原子力の安全とセキュリティを構築しなければなりません。

第 2 に、原子力技術の利用は、国連の持続可能な開発目標の達成を支援するために拡大されなければなりません。能力のある国は、開発途上国が食料の安全保障、人間の健康および環境保護などの生活問題を解決するのを手助けするために、原子力技術の最大限の利用に向けて IAEA と協力すべきです。

第 3 に、イノベーションの協力は、現地での発展により多くの刺激を与えるように一貫して行われるべきです。各国はイノベーションの協力を強化すべきで、国際協力を通じて相互の長所を活用し、小型モジュール炉などの技術の R&D と利用を推進し、放射性廃棄物を適切に処分すべきです。

第4に、客観性と公平性の原則が遵守されるべきです。ホットスポット問題は、適切に解決されるべきです。全ての関係者は、朝鮮半島の核問題とイランの核問題を対話と協議による解決を追求すべきです。IAEAは、本件に関して、プロ意識の精神で行動し、客観性と公平性を維持し、建設的な役割を果たし続けるべきです。

5. 英国の一般討論演説

初めに、現在地球が直面している最大の脅威である気候変動について話したいと思います。英国はご承知のとおり、COP26の議長国です。そして、英国政府一丸となって、今年後半に開催される重要なグラスゴー・サミットに集中しています。

人間が地球に及ぼした影響を示している最新の IPCC 報告は、まさにウェイクアップコールであり、今後何世代にもわたって地球を保護するために、現在思い切った劇的な行動の必要性を強調しています。安全でセキュアな原子力発電は、ネットゼロに達する私たちの計画の重要な構成要素であるでしょう。

そして私たちは異なる考え方をしなければならず、イノベーションを擁護しなければなりません。すなわち、あらゆる原子力技術がもたらす広範な機会を協力して支持することです。そのため、2020 年末に英国首相の 10 ポイント計画は 2024 年までに少なくとももう一カ所の大型原子力発電所を承認するという目標を掲げています。さらに先進原子力技術の機会を開くために 3.85 億ポンドの基金の創設を公約しました。

気候変動問題から離れて、英国はまた、原子力が最も安全な発電技術の一つであることを確実にするために私たちが共同で実施してきた進歩について誇りに思っています。私たちは、各国がその原子力産業を最高水準の安全性と核セキュリティの水準に発展させるのを IAEA が手助けする役割を果たしていることを称賛します。

英国はまた、原子力保障措置システムを強化・拡大するための IAEA の取り組みを引き続き支援します。包括的保障措置協定と追加議定書を批准していない全ての国々に対して、それらの批准と履行を呼びかけます。核不拡散条約と共にこれらの保障措置協定が、多くの国による核兵器の追求を成功裏に妨げ、原子力平和利用の重要な枠組みであり成功要因となっていると強く信じています。

このことを念頭において、私たちは JCPOA（包括的共同作業計画）への責務を一貫して示してきており、合意の完全復帰のために努力しています。最優先課題は米国の復帰であり、イランの約束遵守への復帰です。私たちはイランに対し、迅速な結論に到達するようできるだけ早急に協議に戻り、核計画の極めて危険な軌跡を逆転させ、イランの核計画が平和の計画であることを IAEA が国際社会に保証するのに必要なアクセスを回復させることを強く要請します。

NPT 保障措置下でのイランの申告に対する別の調査で、IAEA 事務局長がイランと精力的に係わり続けている努力を称賛します。私たちは、イラン新政府との協議が重要問題について行われることを確認した IAEA とイランとの合意を歓迎します。イランが迅速に合意を実行し、IAEA と有意義に係り合うことが重要です。

英国は、事務局長の原子力科学研究への揺るぎないコミットメントを称賛します。私は、IAEA の技術協力基金に 400 万ユーロ以上の支援を約束できることを誇りに思います。

現在私たちが見出ししている技術は、世界の現代の最も差し迫った課題を解決するキーになるものであり、そしてそれを最も必要としているところに届けるのは私たちの責務です。

私たちはまた、原子力分野にわたってジェンダーの多様性を改善するという事務局長の展望と約束を共有します。原子力科学研究に対する女性の素晴らしい貢献を軽視できません。英国がマリー・スクロドフスカ・キュリー・フェローシップ計画に 50 万ユーロを約束したのは、そういう理由からです。全ての加盟国が後に続き、将来世代の女性が原子力部門に入ってくるのを鼓舞するためにより多くのことを行うよう要請します。

英国は今年後半のグラスゴーにおける COP26 を主催しますが、私は気候対応への IAEA の献身的活動に個人として謝意を表します。

英国の最高会計検査機関である国家監査院（NAO）の IAEA に対する外部監査機関の役割としての入札参加を強調したいと思います。

NAO は、国連全般にわたって 60 年余りの経験を有する専門性のある経験豊富な外部監査機関です。IAEA の資源の利用について高品質の評価を提供し、どのようにしてその重要な負託をより効率的かつ効果的に実施するかについて助言するでしょう。

私たちは NAO の経験と専門知識がこの役割の強力な候補であると考えており、加盟国がその入札を支持するよう希望します。

最後に、英国は事務局および事務局長に完全かつ心からの支援を提供し続けることを強調したいと思います。

6. カナダの一般討論演説

現在経験している世界的なパンデミックは、グローバルな問題の解決には、効果的な多国間および国際連帯を通じて初めて達成できる集団的アプローチが必要であるという基本的真実を再確認しています。

カナダは、IAEA がその設立以来、私たちの集団的安全保障だけでなく、私たちのエネルギー、健康、および開発のニーズに対して革新的解決を促進することによって、この信条を実行してきたと認識しています。

カナダは、加盟国の COVID-19 危機対応への支援において IAEA が極めて重要な役割を果たしたことを称賛します。カナダでは、原子力部門は、医療機器の滅菌を含め健康部門を支援するために重要な資源を提供することによって、パンデミックを通じて不可欠な存在です。

原子力の平和利用は、他の世界的課題への対応において明確な約束を示してくれます。カナダは、温室効果ガス排出削減と気候変動目標の達成における原子力の重要な役割を認識しています。小型モジュール炉 (SMR) などの先進技術は、エネルギーへのアクセスを拡大し、世界経済の脱炭素化の機会を開くポテンシャルを持っています。カナダは 2020 年に SMR 行動計画を発表しました。カナダは、この技術を推進するために私たちの進歩と現行の取り組みを喜んで共有していきます。

NPT 再検討会議に関連して、カナダは、核軍縮、核不拡散、および原子力平和利用の 3 本柱の実現を前進させる有意義な成果に向けて努力します。原子力利用は、原子力の安全性、核セキュリティ、核不拡散に関する重要な義務を伴います。核セキュリティと核不拡散目標の履行に関して、高濃縮ウラン (HEU) をカナダから米国に返還する複数年プロジェクトの完了を嬉しく思っています。私たちは、HEU 返還の取り組みを協力し続けていくつもりです。

IAEA および加盟国にとって、原子力活動が平和目的限定であるとの信頼の構築に必須の追加議定書の適用を含め、原子力保障措置を完全かつ確固とした形で実施し続けることが最優先です。

シリアや DPRK (北朝鮮) のように過去および進行中の地域の核拡散の懸念を解決するための継続的な取り組みは、国際的な平和と安全保障の維持にとって中心となります。中東では、イランの核計画が長期に亘り懸念の原因となっています。

世界の平和と安定は、核軍縮と大量破壊兵器の不拡散に対する多国間のコミットを通じて強化されます。カナダは、包括的共同作業計画 (JCPOA) の強力な推進者であり、IAEA のイランにおける監視活動に主導的に貢献しており、2021 年の 200 万ドルを含め、2014 年以来 1,700 万ドルの資金提供をしてきました。

原子力安全と核セキュリティを一体的に持続することは、原子力部門への信頼を維持する上で不可欠です。私たちは、加盟国が原子力安全と核セキュリティの責任を遂行するのを手助けする IAEA の継続的な取り組みを歓迎します。原子力と核セキュリティがなければ、原子力技術の継続的な進歩と共有はあり得ません。私たちは、原子力損害賠償条約の実施における IAEA の加盟国に対する支援の取り組みを称賛します。

カナダは、放射性廃棄物の管理を安全かつセキュアな形で解決するのを確実にするため、継続的な改善を約束しています。2019 年の総合規制評価サービス (IRRS) ミッションを受けて、IAEA によって推奨されたように、カナダは、最善の科学に基づき最良の国際慣行を満たし続けることを確実にするために、自身の放射性廃棄物政策をレビューしています。

カナダは 2003 年以來、IAEA の核セキュリティ基金に自発的寄付として 6,800 万ドルを提供しており、世界中の国々に役立つプロジェクトとして利用されてきました。私たちは改正核物質防護条約（CPPNM/A）に関する 2022 年の検討会議および放射線源の安全とセキュリティに関する 2022 年国際会議を期待しています。

最後に、パンデミックの社会経済、財政および健康に対する影響が明らかになるにつれて、私たちは皆、基本的なことを維持しつつも、最も緊急を要することに優先的に対応すべきという圧力に直面しています。これに関連して、カナダは、安全でセキュアな原子力の平和的利用を確実にすることにおける IAEA の中心的な役割の積極的かつ一貫した支持者であり続けます。

7. ウクライナの一般討論演説

グロッシー事務局長の在任期間は、まさに内外ともに難題に見舞われた前代未聞の歴史的な時期と重なっています。ウクライナを代表して、貴台が持ち前の集中力、駆動力、包括力で IAEA を指導し続けられることを願っています。

今年は、チェルノブイリ原子力発電所の事故から 35 周年になりました。IAEA は、この惨事の影響の克服においてウクライナを支援してくれました。

現在、ウクライナは破壊されたチェルノブイリ 4 号機を覆う新しい安全格納構造物の設置を完了し、独立使用済燃料貯蔵施設のホット試験を実施しました。これらを含む活動によって、私たちは引き続き、チェルノブイリ地域の原子力の安全性を最高レベルに確保し、影響を受けた地域を環境に安全なシステムに返還しています。

今年 4 月にウクライナで開催されたチェルノブイリ事故 35 周年のハイレベル行事にグロッシー事務局長が参加されたことを歓迎します。この訪問は、IAEA がチェルノブイリ問題でウクライナと連帯し続けていることを明確に示しています。

ウクライナは、核不拡散体制における IAEA の主導的な役割を認識しています。私たちは、保障措置制度の有効性の強化と効率向上を目的とする IAEA の活動への支持を再確認し、原子力を平和的利用から軍事目的に流用するのを防止することを目的とする IAEA の努力を歓迎します。

ウクライナは、核兵器不拡散条約の目的に引き続きコミットし、ウクライナの包括的保障措置と追加議定書に基づく義務を果たします。

しかし、私たちは、ロシアがウクライナに対する武力侵略を続けて今や 8 年めになることを忘れてはなりません。特殊核物質が、ウクライナの一時的にロシアに占領された地域（クリミア自治共和国、セバストポリ市、ドネツク、ルハンスク地域の一部）で管理されず、査察されないままです。侵略者は、ウクライナの一時的に占領された領土上で保障措置の最低限の実施すら不可能とするような状態を作り上げました。

一加盟国が別の加盟国の領土における IAEA の憲章上の負託の遂行を妨げることは例外的状況です。妨害をしている加盟国が核兵器国であるというのは、殊のほか驚くべきことです。

原子力安全は、ウクライナにとって最優先事項です。各国の原子力安全水準の維持・向上を手助けする IAEA の継続的な取り組みを高く評価しています。

私たちは、原子力安全条約、合同条約やその他の国際協定下での活動が世界の原子力平和利用の安全性を強化するのに良い裏付けになっていると考えます。

私たちは、IAEA の技術協力プログラムが、持続可能な開発を支える原子力技術の安全・セキュアで平和的に利用する能力を構築、強化、維持するための加盟国を手助けする基本メカニズムになっていることを認識しています。

私たちは、パンデミック期間中の IAEA の継続的な支援や COVID-19 発生時のウクライナを含む多くの加盟国への技術支援を高く評価しています。

ウクライナは、IAEA の統合的人畜共通感染症行動（ZODIAC）イニシアチブ、および人畜共通感染症の発生を早期に検知し抑制するのを支援する系統的・総合的アプローチを歓迎します。

最後に、最新の情報通信技術を使って加盟国とのコミュニケーションと協力の強化において、事務局が示してきた継続的な進歩をウクライナが高く評価していることを表明したいと思います。人員の業務再編と義務的な機能の継続という二つの面において、新たな予期しない事態に卓越した形で適応した好例と言えます。

8. インドの一般討論演説（インド原子力委員会委員長・原子力省長官 K.N. ヴィアス）

COVID-19 のパンデミックは私たち全てに悪影響を与えましたが、そうした障害にもかかわらず、原子力省（DAE）によって大幅な進歩が達成されました。産業と社会に大きな価値と利益をもたらす技術の開発に向かって努力し続けています。

過去 65 年間にわたって、IAEA とインドの原子力計画は共に成長・進化してきました。インドは、パンデミックの時期でさえも保障措置に対する然るべき支援を維持しつつ、人類の発展と繁栄のための原子力平和利用の推進において IAEA が中心的役割を果たすことを第 1 優先としてきました。

昨年、ナローラ原子力発電所は 852 日間という新たな連続運転の記録を打ち立てたことをお知らせできることを嬉しく思います。このインドの原子炉が 1 年以上の連続運転をするのは 37 回目です。私たちは、約 551 炉・年の安全運転の累積記録を保持しています。パンデミック中も、インドの原子力発電所は最適に運転し、1 年を通じて約 85% の設備利用率を維持し続けました。

プロジェクトの面では、国産初の 70 万 kW 級・加圧重水炉（PHWR）の第 1 号機であるカクラパー原子力発電所 3 号機が 2021 年 1 月 10 日、成功裏に送電網に接続されました。

ロシアとの協力で進めているクダングラム原子力発電所（KKNPP 5&6、100 万 kWe×2 基）は、2021 年 6 月 29 日、初コンクリートが注入されました。

原子力発電設備増強計画の一環として、原子炉群に国産の 70 万 kWe・PHWR を 10 基建設する計画が大きく進展しました。ジャイタプールに原子力発電所を建設するためのフランスの EDF との議論、およびコバダで原子力発電所を建設するための米国 WH 社との議論は、満足のいく形で進んでいます。

私は原子力の発電以外の利用に関する最近の 2~3 の重要な開発について述べたいと思います。

バーバー原子力研究センター（BARC）は、がんの診断・治療のための国産のキャリアフリーのイットリウム-90 アセテートとルテニウム-106 プラークを開発しました。

BARC はまた、2 つの新しい放射性医薬品を開発しました。90-イットリウム・ヒドロキシパタイト（90Y-HA）と 177-ルテチウム-ヒドロキシパタイト（177Lu HA）です。関節症の効果的で経済的な治療として役立ちます。

タタメモリアルセンターは、インドで初めて CAR-T 細胞療法を開始しました。これによって、治療費は 4,000 万ルピーから 250 万ルピーに下がります。

DAE は、メガサイエンス・プロジェクトに多大な貢献を続けています。すなわち、援助や R&D 機関を通じて、CERN（ALICE, CMS, WLCG）、ITER, LIGO, SKA などです。

原子力規制委員会（AERB）は、バーチャル・プラットフォームを通じて、IAEA、NEA やその他の 2 国間取り決めの活動に参加し続けています。AERB は、原子力安全レビュー 2021 と原子力技術レビュー 2021 の IAEA 報告書案のレビューに参加しました。AERB はまた、世界の原子力施設に対する COVID-19 の影響や様々な原子力施設で取られた防止策や是正策などの情報の収集・活用を続けています。

私たちは、ウィーン市、オーストリアの人々と政府に、IAEA を親切かつ暖かく受け入れていただき感謝します。今後とも原子力の安全でセキュアで持続可能な利用を促進するために IAEA が引き続きリーダーシップを発揮されることを期待しています。インドは、IAEA の全ての努力に対して支援し続けます。

9. ポーランドの一般討論演説（気候環境相 ミハウ・クリティカ）

ポーランド代表団は、スロベニアの著名な代表が欧州連合（EU）の加盟国を代表して行った発言内容を完全に共有します。

原子力発電は、パリ協定の目標と気候中立の達成に向けてのポーランドのエネルギー部門の移行の非常に重要な部分を占めています。

昨年の総会以来、ポーランドの閣僚会議は2つの極めて重要な文書を承認しました。

最重要文書「ポーランドの2040年までのエネルギー政策」は、エネルギー部門全体の再建と転換のビジョンを示しています。この戦略は、600万～900万kWの原子力発電設備容量を2043年までに運転入りさせ、ポーランドの将来の電力システムの発電設備容量の約15%を占めるという計画を再確認しています。

同時に、最近更新されたポーランドの国家原子力発電プログラムは、これらの野心的だが実現可能な計画の実施のためのロードマップを示しています。

ポーランドは、原子力の安全性と核セキュリティの枠組みを改善し続けていきます。ポーランドの原子力発電計画の実行に当たって、新規原子力建設の安全性と核セキュリティを監視するための規制上の準備の確保が優先課題であることを十分に理解しています。

このことを考慮して、ポーランドは、2013年の最初の総合規制レビューサービス（IRRS）ミッションとその2017年のフォローアップが成功裏に終了して以来、2回目のIRRSを招待したいと考えています。IRRSのピアレビューは、ポーランドの原子力安全と規制の枠組みの継続的改善の取り組みに貢献することを私たちは確信しています。

上述した目的を達成するもう一つの重要なステップとして、私たちは、原子力安全と放射線防護のための政策と戦略を策定しました。これは年内に政府によって承認される予定です。

戦略はIAEAの安全基準に従っており、唯一の明確な国家文書を定式化し、原子力安全と放射線防護を一層強化するための基本安全原則と方向を示します。

私たちは、IAEAの技術協力（TC）プログラムの大きな価値を認識しています。TCプロジェクトへの参加はポーランドの原子力平和利用の開発にとって目に見える支援となっていることを強調したいと思います。

ポーランドは、核兵器不拡散条約（NPT）の現在のレビューサイクルに関与しています。NPTは依然として世界の核不拡散と核軍縮構造の基礎です。COVID-19のパンデミックのために2022年に延期された次回NPT再検討会議では、ポーランドは主委員会Ⅱの議長を務めます。同委員会はNPTの柱Ⅱ（不拡散）としてIAEAにとって極めて重要であります。私たちは、第10回NPT再検討会議が成功を収めることを最重視しています。

核不拡散分野におけるIAEAの役割は不可欠であり、過小評価も代替もできないということは疑う余地がありません。IAEAの検証活動は、核不拡散体制全体、とりわけNPTにとって極めて重要であります。IAEAが国連安保理決議2231に照らしてイランにおける核物質と活動を監視し検証している公平な取り組みに対し、IAEAを称賛します。DPRK（北朝鮮）が保障措置協定を完全に実施してIAEAとの協力を復帰するまで、DPRKの核活動に対してアクセス可能な技術を駆使して監視し続けているIAEAの努力に謝意を繰り返し表明します。

ポーランドは、原子力発電を世界の将来の低炭素なエネルギーミックスの重要かつ必要な部分であると考えています。このことは、気候変動政府間パネル（IPCC）、国際エネルギー機関（IEA）、その他著名な組織によって出された、多くの質の高い調査研究や報告書で明白に確認されています。

この観点から、来るべき COP26 に向けて原子力発電の議論が広く行われるように取り組んでいる IAEA の行動を歓迎します。こうした努力の継続を期待しています。

ポーランド政府を代表して、国際原子力機関（IAEA）に対するわが国の確固として継続的な支持を表明したいと思います。同時に、私たちは、ZODIAC のような新たなイニシアチブの開始や、**ポーランド政府が財政的に支援しているマリー・スクロドフスカ＝キュリー奨学金プログラム**などの印象的な活動に対し、ラファエル・マリアーノ・グロッシ事務局長に謝意を伝えたいと思います。今後も事務局長の活動の継続に完全な支持を表明します。

以上